

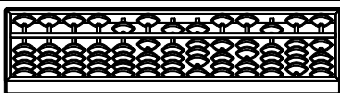
# 北斗通信

エバーオンワード(限りなき前進)

藤岡市立北中学校校長室通信

平成22年6月24日(木)

NO19(通算81)



## 今日の道標 標語カレンダーから

校長室の入り口に倫理研究所発行の標語カレンダーがあります。1日～31日までの日めくりで標語が一つずつ書いてあります。

1日 「いつでも人生の1年生」

入学式、入社式…。緊張と不安の交じった喜びの日を忘れるから、少しのことで挫けてしま。常に謙虚に、フレッシュな感覚を磨こう。

2日 「大自然のそばんには、くるといがない」

損得は一時のこと。やっただけのことがきちんと返ってくる。

3日 「気づかぬうちに驕っている」

「いける」と得意になった瞬間、落とし穴が。人はすぐに天狗になる。油断してはならない。

4日 「真心が、世の中を動かす」

たった一人の真心が、多くの同じ心に共鳴して、時に驚くべき速さで伝わる。

5日 「やってみて初めて分かる領域がある」

実際にやって、肝に銘じたことだけが身につく、腹におさまる。

6日 「心に曇りがあると、真実は映らない」

疑いや批判の雑念を払って、そのまま見、そのまま聞けば、本物が見えてくる。

7日 「感謝は最大の気力」

「ありがたい」と思う心から、困難に立ち向かう気力が生まれる。

8日 「進歩すればこそ、疑問は多くなる」

一步登った分、視界は広がる。疑問は向上の証。喜び勇んで、悩みや疑問に向き合おう。

9日 「見える世界だけがすべてではない」

目に見えないものに、手を合わせよう。敬虔な生き方が、ものごとを後押ししてくれる。

10日 「掃除は心の汚れ、にごりを取り去る」

身体を動かすことで、心も鍛えられる。清掃によって、長年の心の垢が落ちてゆく。

一つ一つが心に響いてきませんか。私などは煩惱がありすぎて、このような生き方はなかなか難しいのですが、少しでも迫れるように、自分の道標にしていきたいと思っています。(続)



先日の上毛新聞に「女子中学生2人に暴行を加えたとして有職少年2名と女子中学生1名が逮捕された」との記事が掲載されました。お読み

になった方も多と思います。

「逮捕された3人は遊び仲間で、被害者とは初対面・・・携帯電話のゲームサイトを通じて被害者と知り合い・・・一緒に遊んでいた。被害者が帰宅しようとしたことに立腹して暴行した」と記事にあります。

全く知らない者同士が、携帯電話を通して知り合い、夜中に遊び、暴行、逮捕となったわけです。そこには、希薄な人間関係の中で、ただ単に楽しいことを追い求め、自分の意に沿わなければ切り捨てるという傲慢な考えがあります。最近の事件の多くが、今回の事件と同じ状況を呈しているようです。とても怖いことです。

今までにも携帯電話についてはいろいろと意見を述べてきましたが、もう一度言います。中学生には携帯電話は必要ありません。持たせないことが、最良の選択です。もしどうしても持たせる場合は、子どもとよく話し合い、使い方についての指導を徹底してください。最悪の場合命を失ったり、一生を棒に振ることもあるわけですから。

六月二十四日という日  
加藤 清正没(一六一一)一六一〇年、名古屋城築城中のこと。「家康の息子の城作りに、旧豊臣家の我々が使われるとはな」と、福島正則が愚痴をこぼした。すると、同じ旧豊臣の家臣の加藤清正が「嫌なら謀反を起せ」と言った。清正は、「言っても仕方ないことは言うな。その暇に仕事をしよう」と笑い飛ばした。  
翌年三月、京都二条城で、徳川家康が豊臣秀吉の子、秀頼を引見したとき、清正は秀頼に万一のことがあったら、家康と刺し違えて死ぬ覚悟で、秀頼に寄り添った。  
会見が無事に済むと、清正は、懐かしく小刀を出して、「太閤に恩が返せたら泣いた」という。その三か月後、清正は死亡した。今でも毒殺説が有力視されている。果たして誰が?!